



平成29年2月28日発行

ダンボ通信編集委員会

読み語り研修会

1月22日 大田市中央図書館での研修会に参加させていただきました。講師は大田市出身の江角宏子先生で、60年以上たって

も鮮明な小学生時代の記憶をまじえながら話されました。最初は「読み聞かせの意義について」で、顔が見えることで人への信頼感が育ち、同じ場所で聞くことで連帯感や規範意識が育つとのことで認識を新たにしました。

「絵本の読み聞かせの仕方」では具体的に本の持ち方やめくり方、立ち位置、発声等、よく見え、よく聞こえるように細かく教えていただきました。

配布された資料には本を選ぶ時のポイントやいろいろな分野のおすすめリストがあり、先日のダンボ通信にあった「科学的な視点の本」に引き気味であった私にはたいそうありがたかったです。実際に持ってこられた科学的な本を紹介され、これならお互い興味を持って読んだり聞いたりできると思いました。

大島渚監督が文を書いた戦争体験の絵本「タケノコごはん」を取りあげ読まれている時には内容に引き込まれ、研修という場を忘れて、ただ楽しんでいる聞き手になっていました。

外の強風や寒さも吹き飛ばす、あっという間の2時間でした。読み手と聞き手が一つになれるように工夫していきたいです。

三谷真理



江角宏子先生

セロ弾きのゴーシュ

2月2日、久手小体育館で「劇団あしぶえ公演」セロ弾きのゴーシュの上演がありました。

久手小、朝波小、一般の方350人が舞台を鑑賞されました。

私たちダンボの会も、全校生徒に「セロ弾きのゴーシュ」の内容を理解してもらい、公演に臨んでもらいたいとの要望でお話をしました。

「あしぶえ」の主宰園山さんは公演の目的に、子供たちに生の芝居を身近でみてもらい、体で感じてほしいこと。

未来教育に大切なことは、いろいろな文化体験を通じて、親子共々の参加をめざしたいと語られました。

学校として、これからも、次の目標を目指したワークショップ作りをしていきたいと話されていました。

昨年の4月に赴任してこられた武田校長先生に、文科系の教育に力を入れられていますね、と話したら、前の学校で行っていたことを続けて久手小でやっているだけですと、笑顔で答えられたのがとても印象に残っています。

舞台では、ゴーシュが学長に怒られ、最初は自信なさそうにビクビクしている様子など表現されていて感動させられました。

ねこ、カッコウ、子狸、野ネズミなどと出逢い、色んなことを教わり、自然に成長して、最後には学長にも褒められるほどに、上手になっていきます。

生徒たちの感想にも、様々な意見があり、演技を理解していた様子が伝わってきました。

6年生で、中学になっても、努力して頑張ろうと思いましたがと言われていて、今回の公演の目的が、大成功だったと確信しました。

皆さん本当にご苦労様でした。

大國 武美



すみません。いつも私だけ写真に写りまして。

左：ゴーシュ役の松浦優海さん

右：園山土筆さん

右下：私の本当の姿。



三瓶で絵本フェスタ

2月25日(土)～26日(日)「三瓶で絵本フェスタ」が開催されました。

私は25日から参加させてもらい、ツペラツペラの亀山達矢さんのワークショップ「三瓶の生き物大集合」、夢屋のおっちゃん(中村由利江さん)の紙芝居とトークに参加させてもらい、めちゃめちゃ勉強しました。

読み語りでも参加された。大國さん、三谷卓美さん、下垣さん、三谷真理さん、半田さんお疲れさまでした。

山崎一功



ブラックライトで映し出された「三瓶の生き物大集合」



いつもの記念撮影(すみません)



夢屋のおっちゃん(中村さん)の紙芝居の模様。



緊張の面持ちで開始を待つ皆さん。



緊張から解き放たれ脱力した皆さん。



久しぶりに会った。やけに陽気なスティーブ